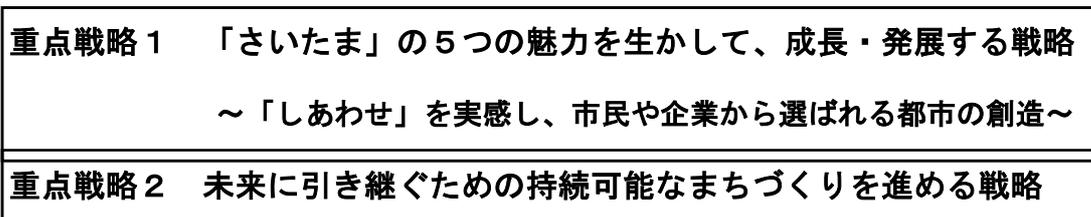
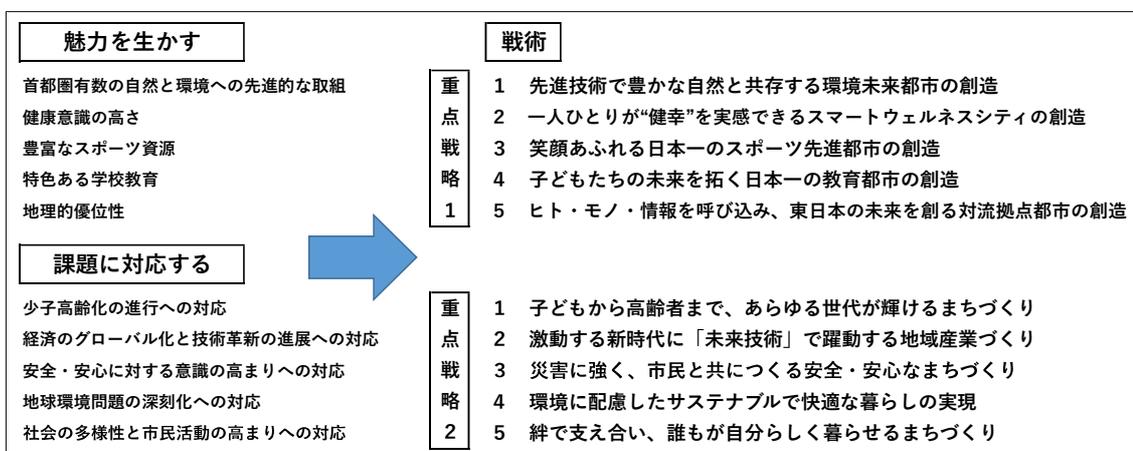


第 2 部 重点战略

- 今後、財政状況が厳しくなる中、限りある経営資源を選択と集中の視点で、本市が目指す「上質な生活都市」、「東日本の中枢都市」という2つの将来都市像の実現に効率的かつ大きく貢献していく事業を重点化し、最小の資源で最大の効果をあげていくことが重要となります。
- そのため、これまでの都市づくりで育まれた「強み」や「優位性」である「魅力」を最大限に活用していくことで、市民がしあわせを実感し、市民や企業から選ばれ、更なる成長・発展につなげていく必要があります。一方で、本市を取り巻く環境が厳しさを増す中、将来も持続可能な都市として、成長・発展し続けるためには、直面する「課題」に迅速に対応し、まちづくりの土台をしっかりと築いていく必要があります。
- また、本市の魅力を最大限に活用し、課題に対応することは、将来予想される本市の人口減少の克服や地方創生にも資するものです。
- そこで、『「さいたま」の5つの魅力を生かして、成長・発展する戦略』と『未来に引き継ぐための持続可能なまちづくりを進める戦略』の2つの重点戦略を設定します。



- 2つの重点戦略を実現するために、分野横断的に「魅力」を生かし、「課題」に対応する10の戦術を掲げます。



重点戦略1 「さいたま」の5つの魅力を生かして、成長・発展する戦略 ～「しあわせ」を実感し、市民や企業から選ばれる都市の創造～

魅力1：首都圏有数の自然と環境への先進的な取組

戦術1 先進技術で豊かな自然と共存する環境未来都市の創造

目指す方向性

見沼田圃や荒川・元荒川を始めとする豊かな自然資源を守り育て、それらを重要な資産として活用し、水と緑に囲まれた潤いのある都市生活を実現します。

また、次世代自動車・スマートエネルギー特区に関するこれまでの実績や取組を更に加速させて、再生可能エネルギー等の導入を積極的に促進し、地域内での電力の地産地消と自立・分散型エネルギーシステムを構築するなど、持続可能なエネルギーを確保し、脱炭素なライフスタイルを実践する「環境未来都市」の実現を目指します。

重点ポイント

- ◆首都圏有数の自然環境の活用
 - ・見沼田圃の次世代への継承
 - ・良好な生活環境及び自然環境の保全
- ◆脱炭素社会に向けた先駆的な技術やサービスの展開
 - ・再生可能エネルギーの積極的導入
 - ・電力の地産地消

魅力2：健康意識の高さ

戦術2 一人ひとりが“健幸”を実感できる

スマートウェルネスシティの創造

目指す方向性

市民の健康意識の高さと、平坦な歩きやすい地形を生かし、ICTを活用した科学的根拠に基づく健康づくりや、市内の四季折々の風景や魅力スポットを「歩く」を基本に巡るなど、楽しみながら「体を動かす、体を動かしてしまう」まちづくりを推進します。市民が自ら進んで身近な健康づくりに取り組む環境づくりを進めることで、市民一人ひとりが「健幸」な暮らしを実感できる都市の実現を目指します。

重点ポイント

- ◆ ライフスタイルやライフステージに応じた「健幸」づくり
 - ・ ICTを活用した科学的根拠に基づいた健康づくり
 - ・ 歩くことを中心に楽しく続ける健康づくり
- ※ 「健幸」…身体面の健康だけではなく、人々が生きがいを感じ、心豊かな生活を送れること

魅力3：豊富なスポーツ資源

戦術3 笑顔あふれる日本一のスポーツ先進都市の創造

目指す方向性

本市を本拠地とするトップスポーツチームや、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの会場となった大規模スポーツ施設などの豊富なスポーツ資源を生かしたスポーツツーリズムなどにより、スポーツの分野で観光・交流人口の拡大を図ります。

また、地域における市民参加型のスポーツイベントなど、生涯を通じて身近にスポーツに親しめる環境を整備することで、スポーツ先進都市の実現を目指します。

重点ポイント

- ◆ スポーツを活用した総合的なまちづくりの推進
 - ・ スポーツシュールなどによる民間力や地域資源、ICTを活用したスポーツ人材の育成、持続可能なスポーツ環境の整備、スポーツビジネス・産業の創出や活性化
 - ・ サッカーを核とした「スポーツのまち さいたま」の発信
 - ・ スポーツツーリズムなどによる観光、交流人口の拡大
- ◆ 生涯スポーツの振興
 - ・ 地域で気軽にスポーツに親しむことができる機会の提供
 - ・ スポーツを通じた地域コミュニティの形成や醸成

戦術4 子どもたちの未来を拓く日本一の教育都市の創造

目指す方向性

国に先駆けて実施している本市独自の英語教育であるグローバル・スタディの推進などを通して、コミュニケーションを通じて人間関係を築く力や、ものごとを最後までやり抜く力など、グローバル社会で活躍する力の育成に取り組みます。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたアクティブ・ラーニングの推進などを通して、他者と協働しながら新たな価値を創造していく力や、夢を実現しようとする高い志を持って可能性に挑戦する力の育成に取り組むなど、本市ならではの特色を生かした魅力ある教育都市を目指します。

重点ポイント

- ◆未来を拓くさいたま教育で子どもの力を伸ばす
 - ・12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成
 - ・グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成

戦術5 ヒト・モノ・情報を呼び込み、

東日本の未来を創る対流拠点都市の創造

目指す方向性

新幹線6路線などが乗り入れる「東日本の玄関口」である大宮駅を有する本市の拠点性を生かして、東日本の対流拠点都市としての都市基盤の整備や多様で高次な都市機能の集積、広域的な交通網の強化、対流拠点機能の集積強化などを進めるとともに、大学等との連携による成長分野におけるイノベーション創出支援や企業誘致の促進により、産業力を強化し、本市及び東日本全体としての経済の活性化を目指します。

また、大規模な自然災害の危険性が比較的低いと考えられ、「さいたま新都心」付近が国の緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の進出拠点に位置付けられたことから、広域的な防災拠点としての機能の強化を図り、災害時の首都機能をバックアップする拠点機能を有する都市の実現を目指します。

重点ポイント

- ◆国際的な結節機能の充実
 - ・東日本の対流拠点都市にふさわしい都市機能の導入
 - ・広域鉄道や道路網の強化
 - ・空港へのアクセス強化
- ◆対流拠点機能の集積強化
 - ・東日本の「ヒト・モノ・情報」の交流、発信
 - ・広域周遊観光ルートを活用した誘客促進
 - ・MICEの推進
- ◆強い産業力の創出
 - ・企業の立地促進
 - ・成長分野におけるイノベーションの創出
 - ・創業支援の充実
- ◆広域防災拠点機能の強化
 - ・災害時のバックアップ拠点機能の強化（広域な防災拠点の要となる防災機能を有する都市公園の整備）

重点戦略2 未来に引き継ぐための持続可能なまちづくりを進める戦略

課題1：少子高齢化の進行への対応

戦術1 子どもから高齢者まで、あらゆる世代が輝けるまちづくり

目指す方向性

少子化の進行、保育需要の更なる拡大に対応するため、妊産婦や子育て家庭の不安や悩みを軽減するための切れ目ない支援を行うとともに、様々な事情やニーズに応じた多様な保育の受け皿と質の向上や、放課後児童クラブの充実を図り、安心して子どもを産み育てることができる環境を整備することで、子どもと共に生きるすべての人が社会で活躍できるまちを目指します。

また、急速な高齢化に対応するため、高齢者が「生涯現役」として質の高い学びを続け、積極的に社会参加できる取組を進めるとともに、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供できる体制を更に進め、住み慣れた地域で人生の最後まで、意欲や熱意をもって活躍できるまちを目指します。

重点ポイント

- ◆子ども・子育てを支える都市の実現
 - ・安心して妊娠・出産・子育てできる切れ目ない支援
 - ・子育てニーズに対応した多様な受け皿の確保と質の向上
- ◆心身ともに健康的で安心して長生きできるまちづくり
 - ・地域づくりによる介護予防の取組
 - ・セカンドライフの充実
 - ・生活を支える移手段の充実

課題2：経済のグローバル化と技術革新の進展への対応

戦術2 激動する新時代に「未来技術」で躍動する地域産業づくり

目指す方向性

経済のグローバル化に伴う世界経済の変動による国内経済への影響、我が国の人口減少による経済停滞や、企業の人手不足感の高まりなどが懸念される中、中小企業の経営革新や経営基盤強化への支援、商業の活性化のためのにぎわいづくり等の取組を推進します。

また、AI等最新の技術革新の進展による労働市場の変化を捉え、ニーズに応じた就労支援の充実、誰もが働きやすい就労環境の整備を進め、地域産業を中心に躍動するまちを目指します。

重点ポイント

- ◆経営革新と経営基盤強化
 - ・中小企業の競争力強化
 - ・活力ある地域産業を育てる環境の整備
 - ・商店街のにぎわい創出
 - ◆地域経済を支える人材展開の強化
 - ・多様な人材の育成と活用
 - ・多様なニーズに応じた就労支援
 - ・生き生きと働ける魅力ある就労環境の整備
- ※「未来技術」…AIなど、Society5.0の実現に向けた技術

戦術3 災害に強く、市民と共につくる安全・安心なまちづくり

目指す方向性

大規模自然災害による甚大な被害への懸念に対して、行政、関係機関及び地域が連携し、市民全体の防災意識の醸成を図るとともに、自主防災組織の育成強化、緊急輸送道路や上下水道等の都市インフラ、建築物の耐震性確保等により、市民の生命と財産を迅速・的確に守るための取組を進めます。

また、高齢者の交通事故の割合が増加傾向にあることから、交通安全教室等を通じて、交通マナーの向上と交通ルールの遵守の徹底を促すとともに、身近なところで起きる街頭犯罪に対して地域における防犯活動を支援し、安全で安心に暮らせるまちを目指します。

重点ポイント

- ◆災害に強い都市基盤整備
 - ・防災上の課題に応じた都市・生活インフラ等の整備
- ◆地域と共に進める災害対策
 - ・防災意識と地域防災力の向上
 - ・消防・救急体制の充実強化
- ◆安心して暮らせる都市の実現
 - ・交通事故の防止
 - ・地域と連携した防犯の推進

戦術4 環境に配慮したサステナブルで快適な暮らしの実現

目指す方向性

脱炭素社会の実現に向けて、鉄道やバスの利用促進に加え、シェアサイクルの普及や自転車ネットワーク路線の整備、安全な歩行空間の創出により、公共交通機関や自転車・徒歩への利用転換を促進することで、クリーンで快適な暮らしを実践できるようにします。

また、節電や省エネ、3R（リデュース・リユース・リサイクル）に関する啓発に努めるとともに、近年新たな課題となっているプラスチックごみと食品ロスの削減に向けた施策を推進することにより、環境に配慮した循環型のライフスタイルの実現を目指します。

重点ポイント

- ◆環境に配慮したライフスタイルへの転換
 - ・廃棄物の3R（発生抑制・再利用・再生利用）の推進
 - ・過度な自動車利用から公共交通機関や自転車・徒歩への利用転換

課題5：社会の多様性と市民活動の高まりへの対応

戦術5 絆で支え合い、誰もが自分らしく暮らせるまちづくり

目指す方向性

市内に居住する外国人と日本人が互いの文化や習慣などを学び合う機会を充実することや、障害のあるなしに関わらず、誰もが権利の主体として共に暮らせる地域づくりを進めるなど、互いが持つ文化や価値観を尊重し、誰もが自分らしく暮らせるまちを目指します。

また、ライフスタイルの変化や住民の頻繁な流入・流出、単独世帯の増加や夫婦のみの世帯の増加による家族や地域の支え合い意識の希薄化など、まちづくりの基盤となる「地域力」の低下に対して、子どもから高齢者まで多世代の交流を促進するとともに、学校や歴史文化資源等を活用した地域コミュニティの活性化を図り、地域の絆などのソーシャルキャピタルを高めることにより、人と人が触れ合い、支え合う地域社会の形成を目指します。

重点ポイント

- ◆誰もが自分らしく暮らせる地域共生社会の実現
 - ・人権を尊重する意識の醸成
 - ・多文化共生社会の推進
 - ・ノーマライゼーション理念の実現
- ◆ふれあいのある地域社会の形成
 - ・地域住民等の交流や自主的活動の促進
 - ・スクール・コミュニティによる連携や協働の充実
 - ・文化芸術を活用した地域コミュニティの活性化